

環境教育関係事業について

環境教育を進める取り組みの柱（～平成 30 年度）

札幌市環境教育基本方針で定めた 4 つの取り組みの柱

- (1) 人材の育成
- (2) 情報の共有・活用
- (3) プログラムの作成
- (4) 機会づくり・場づくり

1 平成 30 年度実施結果および今後の予定などについて

(1) 人材の育成

ア 指導者に向けた研修

教員のスキルアップのために、今年度は、環境プラザが札幌市生活科・総合学習教育連盟から依頼を受け、SDGs についての研修講師をコーディネートしたほか、児童会館の指導員を対象に、日常活動で取り入れられる自然遊びの研修を行いました。

また、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「教育課題研修コース（環境教育①～②）」や「教職基礎研修コース（環境教育の基礎）」などの環境教育に関する専門的研修を札幌市教育センターなどにおいて実施し、今年度も延べ 100 人以上の教員が受講しました。

イ 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣

市民活動団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等の消費生活などさまざまな環境分野の研修会、学習会等に専門家を派遣する事業で、13 人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導、解説者を派遣する事業で、32 人のリーダーに登録

いただいています。

なお、今年度から、環境教育リーダー制度運営事務取扱要領を一部改正し、1団体当たりの派遣回数を3回から2回に減らしました。これにより、1団体の利用回数を減らし、環境活動の入り口として、新しい団体にも利用していただけるような体制にしました。

【派遣実績】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	39 件 (2,136 人) <14 人>	44 件 (3,043 人) <14 人>	45 件 (2,926 人) <14 人>	44 件 (1,398 人) <14 人>	40 件 (1,530 人) <13 人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	128 件 (6,303 人) <28 人>	105 件 (5,121 人) <31 人>	93 件 (3,558 人) <27 人>	100 件 (3,869 人) <32 人>	75 件 (2,175 人) <32 人>

※ 平成 30 年度は、平成 31 年 2 月末現在の実績。

ウ 札幌市環境プラザにおけるリーダー育成

(ア) こどもエコクラブ

環境プラザでは、子どもたちがさまざまな生活の場において、エコリーダーとなって活躍することを目的として、平成 22 年度に「こどもエコクラブ」を設立して活動を行ってきました。

平成 29 年度からは環境プラザ独自の運営ではなく、こどもエコクラブを新設した団体およびこれから環境に関する活動を始めようとする団体へのプログラムの提供や、児童へ直接指導することを通して、指導者、子ども双方に主体的な学びの方法を伝える支援をしています。

市内のこどもエコクラブ交流会では、「さがしてみよう！森の精霊」と題して森の中で見つけた素材を使った製作により、自然の楽しさを知り、関心を持つきっかけをつくりました。活動を通してエコクラブのサポーター同士が活動内容の情報を交換するなど、意義のある交流会となりました。

また、それぞれのクラブの活動を紹介する写真展を実施しました。

(イ) 学生サポーター制度

平成 27 年度に環境プラザ学生サポーター制度を創設。環境プラザが行

う事業に運営サポーターとして参加する機会を設けるとともに、学生サポーター自身にとっても環境教育への理解を深め、今後の活動に生かせる学びの機会となるよう運営しています。

エ エネルギーに関する環境教育の推進

市内の小学校2校（百合が原小（平成23年度整備）、南郷小（平成25年度整備））中学校1校（平岸中（平成24年度整備））にエネルギー消費量がモニターで見える設備を備えたほか、平成30年度も3校に太陽光発電設備の設置を行い、発電量等をモニターで確認できるような設備を備えたところです。

また、見える化設備の模擬体験が行える環境教育教材を環境プラザのホームページ上で公開し、エネルギー学習が行えるようにしています。

平成28年度からは、校外学習用バス貸出事業において、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーやLNG(液化天然ガス)基地などを見学施設に組み込んだモデルコースを新たに設け、実践的に学べる取り組みを行っています。

オ 環境に関する学習活動・研究実践校（平成30年度のモデル校は5校）

今年度からは、これまでの「太陽光パネル活用等に関する実践校」と「地域・外部人材を活用した実践校」を統合し、「環境に関する教育課程研究実践校」として5校が指定され、研究実践校として活動しました。

[指定校一覧（平成30年度）]

環境に関する教育課程研究実践校	
札幌市立緑丘小学校	札幌市立苗穂小学校
札幌市立米里中学校	札幌市立定山溪中学校
市立札幌藻岩高等学校	

カ さっぽろエコスクール宣言・さっぽろっこ環境ウイークの取り組み

札幌市の全ての市立幼稚園・学校では、自校において節電、節水、ごみ減量などの取り組みを行っており、教育委員会が「エコスクール宣言校」と認定しています。

エコスクール宣言校では、「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日の前後2週間を「さっぽろっこ環境ウイーク」とし、この期間を中心に「環境」をテーマとした取り組み（「エコアクション」）を重点的に実施しています。

(2) 情報の共有・活用

ア 環境プラザホームページ

環境プラザでは、随時、ブログで最新情報を積極的に発信するなど、ホームページを利用して情報提供を行っています。

【ホームページアクセス件数】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
環境プラザHP	167,899	233,566	134,700	95,649	74,117
キッズページ	13,522	14,937	6,757	8,924	3,059

※ 平成 30 年度は、平成 31 年 2 月末現在の数値。

※ 平成 28 年度中に件数カウンターを入れ替えたため、アクセス件数は 27 年度以前と比較できない。

イ 環境教育関連施設連携事業の実施

より効果的な環境教育を推進するため、市内の環境関連施設との情報を共有・活用することで、施設間の連携を進めています。

平成 28 年度から開催している「インタープリターズキャンプ in 札幌」を、各環境教育関連施設の共催で今年度も実施。札幌市青少年山の家を会場に、環境活動の実践者向けの講座として、公益財団法人キープ協会から講師を招き、地域資源を生かしたプログラムデザインの考え方と手法、ファシリテーションの基礎を学びました。

また、クイズに答えながら各施設を巡る「いきものつながりクイズラリー」（生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク主催）も昨年度に引き続き開催しました。

※ インタープリター：自然と人との仲介役として、知識のみならず自然の面白さや大切さを伝える人。

ウ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、さまざまな組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う組織で、環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海

道)、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（通称：きたネット）の4組織から構成されます。年4回の会議には、環境省北海道地方環境事務所、北海道および札幌市もオブザーバーとして参加しています。

このほか、環境教育施設等の指定管理者制度に関する連続勉強会なども、公開により行っています。

ホームページ「環境☆ナビ北海道」(<http://enavi-hokkaido.net/index.html>)にて、イベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

(3) プログラムの作成

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用していただいています。また、教師用手引書も配布しています。より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」のほか、平成30年度から教科化された「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織し、改訂を行っています。

なお、2020年度からは、改訂学習指導要領に基づく内容に改訂予定です。

イ 環境プラザにおける学習プログラム

環境プラザの展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムや、出前授業等の体験型学習プログラムを作り、学校等で活用できるよう充実を図っています。

また、ハウススタジオを利用し、子どもを対象に生活用品を用いたワークショップを実施しているほか、家庭の消費電力見える化機器（省エネナビ）の解説や貸し出し、環境相談員による省エネ節電の解説なども行っています。

(4) 機会づくり・場づくり

ア 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸出事業を行っています。

道内連携や学校現場のニーズを踏まえ、平成28年度から札幌近郊や民間

企業施設も含めた環境施設見学として、拡充しています。

具体的には、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などをモデルコースとして見学施設に組み込み、実践的に学べるよう工夫しています。

なお、今年度についても、昨年度同様、バスの手配が困難な夏季の観光シーズンを避けて実施。より利用しやすいように、貸出期間を昨年度よりも1週間延長し、10月15日から12月14日までとしました(49校が利用)。

[バス貸出実績推移]

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
応募校数	114校	103校	103校	58校	59校	52校	49校
利用校数	61校	46校	34校	50校	59校	52校	49校
バス利用台数	133台	94台	76台	99台	125台	110台	98台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 小学校を対象として平成19年度に事業開始。平成21年度からは中学校も対象とした。

<主な見学先（平成30年度）>

見学先	見学校数（延べ）
清掃工場（白石、発寒、駒岡）	15校
札幌市リサイクル団地	12校
豊平川さけ科学館	11校
下水道科学館・水再生プラザ	8校
北海道ガス石狩LNG基地	5校
北海道博物館	4校
モエレ沼公園	4校
青少年科学館	3校
円山動物園（次世代エネルギーパーク含む）	3校

イ 環境教育へのクリック募金

「環境教育へのクリック募金」は、インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、企業の環境活動を紹介。閲覧数に応じた金額を協力企業（現在は8社）にご寄附いただ

き、それを原資に環境教育教材を購入・寄贈するという企業の社会貢献活動です。

今年度は、小中学校計 36 校に、手回し発電機やガス検知管（酸素、二酸化炭素）などの環境教育教材を寄贈しました。

また、クリック募金のホームページ上で「事業報告書」を公開し、各年度の学校での取り組み内容を紹介しています。

ウ 環境プラザにおける学習支援等

環境プラザ見学者への展示解説や環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

また、夏休みには「自由研究応援講座～まちのなかで養蜂体験！」と題して、札幌の街なかで行っている養蜂を専門家から直接教えていただき、採蜜体験やミツバチの観察を行うプログラムを実施。自分たちが普段食べているものがどのようにできているのかに関心を持つきっかけを作るとともに、体験だけにとどまらない主体性のある学びの方法を伝えました。

このほか、「環境広場さっぽろ 2018」への出展など、さまざまな環境イベントにおいて体験学習の場を提供したほか、環境に関する講座や市民活動団体と連携した事業も実施しました。

エ かんきょうみらいカップ

フットサルや卓球などのスポーツ・レクリエーションを通じて、環境活動に楽しく取り組んでもらうことを目的として「かんきょうみらいカップ 2018」を開催しました。

(7) フットサル部門

今年度は、8月1日に札幌サッカーアミューズメントパークで開催し、289人（36チーム）がフットサルや環境クイズに参加しました。このほか、参加した子どもたちから、環境について考え、取り組んでいることを「環境体験・活動カード」に記載してもらい、優秀な取り組み内容については表彰を行いました。

また、フットサルと環境クイズで高得点を獲得したカテゴリーⅠ（小学1～4年）とカテゴリーⅡ（小学5・6年）のそれぞれ上位4チーム、合計8チームが、9月29日開催の「北海道コンサドーレ札幌対サガン鳥栖」（札幌ドーム）のカーテンレージャーマッチ（前座試合）に出場しました。

(イ) 卓球部門

今年度は、4月14日にホープス・カブ・バンビ(小学生)の部を厚別区体育館で、7月21・26・27日にカデット(中学生)の部を美香保体育館でそれぞれ実施しました。フットサル部門同様、合計1,200人を超える出場者から「環境体験・活動カード」を提出してもらい、優秀な取り組みについては表彰を行いました。

なお、平成16年度から実施してきた「かんきょうみらいカップ」事業ですが、事業自体が形骸化したことや、フットサル部門の参加希望チームが年々減少し、参加者集めに苦慮していることなどが懸案となっております。そこで、事業の見直しを検討し、今年の1月16日と18日に実行委員会を開催し、事業の廃止を決定しました。

オ さっぽろこども環境コンテスト

昨年12月1日に、小中学生の環境活動を発表する「さっぽろこども環境コンテスト2018」を開催しました。今年度は、学校外団体の部4団体、小学生の部3校、中学生の部3校の合計10団体に参加いただきました。

そのほか今年度は、「平成30年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した定山溪中学校と、「環境に関する教育課程研究実践校」の札幌藻岩高等学校の2校に特別発表してもらいました。

また、各部の最優秀賞を受賞した3団体には、平成31年1月29日に市役所本庁舎にて開催した市長報告会で、直接市長へ発表内容を伝えていただきました。

審査員長	北海道大学教授	大沼 進 氏
審査員	北海道地球温暖化防止活動推進員	宮森 芳子 氏
審査員	市立札幌平岸高等学校学校長	尾崎 寿春 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	大平 英人

[発表団体] ◎：最優秀賞受賞団体 ○：優秀賞受賞団体 ●：クリック募金特別賞

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
◎栄西児童会館 こどもエコクラブ タッピーファーム	◎札幌市立西白石小学校	◎札幌市立米里中学校 科学部
○旭山自然調査隊	○札幌市立緑丘小学校	○札幌市立北辰中学校 科学部
●発寒小ミニ児童会館 環境クラブ ワンダフルハッサム	●札幌市立西園小学校	●札幌市立宮の森中学校 科学部
●山鼻かしわ児童会館 エコクラブ		

[特別発表団体]

札幌市立定山溪中学校、市立札幌藻岩高等学校

カ エコライフレポート

エコライフレポートは、小中学生に家庭のエコリーダーとして環境配慮行動を意識し、実践してもらうことを目的に、平成19年度から実施している事業です。

夏休みおよび冬休み前に全市立小中学校の児童・生徒に用紙を配付し、身近なエコ行動への取り組みを促すものとして実施しています。

昨年度までの3年間は、同様の取り組みを続けてもらうために、項目を変えずに実施しておりましたが、今年度は、節電などのほか、環境にやさしいものを意識して使ってもらうための「エコマークの付いた商品をたくさん見つける」や地産地消を促進するための「北海道産の野菜を食べる」「北海道産の肉や魚を食べる」についても取り組み項目として設定し、子どもたちに「エコマスターになろう」と呼び掛けました。

また、次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市「環境首都・SAPPORO」を推進するため、「みらいを想う ～ Think Green」をテーマとしたロゴをレポートに掲載しました。

なお、取り組み結果については、これまでと同様、各学校においてどのくらいのCO₂削減効果があったかを記載した「認定証」を配布しています。

<夏休みエコライフレポート>

児童・生徒の取り組み率 95.1%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				平成30年度夏	参考(平成29年度夏)
小学生	202校	89,818人	87,008人	96.9%	97.0%
中学生	99校	43,412人	39,646人	91.3%	92.0%
合計	301校	133,230人	126,654人	95.1%	95.4%

子どもたちによるCO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	平成30年度夏	参考(平成29年度夏)
小学生	993,203 kg-CO ₂	735,612 kg-CO ₂
中学生	491,096 kg-CO ₂	299,586 kg-CO ₂
合計	1,484,299 kg-CO ₂	1,053,198 kg-CO ₂

※ 数値は子どもたちの取り組みチェック項目からの1カ月の推計値

<冬休みエコライフレポート>

児童・生徒の取り組み率 93.1%

	取組学校数	児童・生徒数	取組人数	取組率	
				平成30年度冬	参考(平成29年度冬)
小学生	201校	89,981人	85,186人	94.7%	95.9%
中学生	99校	43,438人	38,975人	89.7%	90.9%
合計	300校	133,419人	124,161人	93.1%	94.3%

子どもたちによるCO₂削減量

	CO ₂ 削減量	
	平成30年度冬	参考(平成29年度冬)
小学生	2,168,078 kg-CO ₂	858,847 kg-CO ₂
中学生	1,035,839 kg-CO ₂	376,680 kg-CO ₂
合計	3,203,917 kg-CO ₂	1,235,527 kg-CO ₂

※ 数値は子どもたちの取り組みチェック項目からの1カ月の推計値